

令和3年度第2回 瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和3年11月5日（金）14時00分～15時30分

開催場所：瀬戸内市役所 2階 大会議室

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学人間生活学部）

 田野副会長（瀬戸内市副市長）

 大上真司 【代理：平本氏】（両備ホールディングス（株））

 宇野泰正（宇野自動車（株））

 佐藤輝彦（東備バス（株））

 尾崎博文（（有）ツルヤタクシー）

 坂本克善 【代理：重田氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

 元浜詳一（瀬戸内市商工会）

 秋山秀行（瀬戸内市観光協会）

 中尾博延（瀬戸内市老人クラブ連合会）

 角房澄恵 【代理：戸田氏】（生活交通網をつくる会）

 桐畑修一 【代理：近重氏】（西日本旅客鉄道（株）岡山支社）

 山中慎一（中国運輸局岡山運輸支局）

 竹本尚代 【代理：山形氏】（岡山県県民生活部県民生活交通課）

 杉田和也（備前市市民生活部）

 住田一平（瀬戸内警察署）

出席委員 16名 随員 1名

委任状提出委員 5名

事務局：総合政策部 岡崎（部長）

 企画振興課 青砥（課長）、木村（主査）、鈴木（主事）

1. 開会

2. 会長あいさつ

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は減少傾向ではあるが、本市の公共交通の軸となる民間路線バスや鉄道などの公共交通機関は、生活様式の変化や外出自粛の影響を受けて非常に厳しい経営状態が続いている。このような状況下においても通院や買物に公共交通を必要としている方のために運行を続ける必要がある。将来、新型コロナウイルス感染症が収束した後も公共交通の果たす役割は重要であることから、地域の実情に応じた公共交通網の再構築について未来を見据えて考えていく必要がある。この公共交通会議においても、それぞれの立場から積極的な発言をいただきながら議論を深め、瀬戸内市の公共交通網が今後も維持できるように、その道筋を作ることが重要である。本日の会議においても、路線バスの維持に関して将来に向けた前向きな内容の協議をお願いしたい。

3. 協議事項

(1). 地域内交通について

---資料 (p1~3) により、事務局から説明---

《主な説明事項》

- 市営バス事業
- 前島地域内交通実証事業

会長	ご意見、ご質問はあるか。
委員	資料 2 ページ (2) について、私が中国運輸局交通政策課で勤務していたとき、GTFIS のデータ活用セミナーを主催し、GTFIS データのオープンデータ化を進めてきた。瀬戸内市の取り組みに関しては個人的に非常に嬉しく思っている。新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪日外国人の公共交通利用は低迷している。観光庁の統計によると訪日外国人の 40%~50%がグーグルマップを使っている実態がある。全国的には、オープンデータ化によって生活交通路線が観光路線に変化したバス路線の事例が多くある。データを取得しながら、観光客がどのような行動をとったのか、利用者がどのように変化したのかをしっかりと見ていただきたい。 GTFIS に関しては、アラート機能で特定の検索に対して、文字で情報の追加ができ、災害情報なども入れられる。豪雨災害時に路線バスの運行状況などとセットで住民に示すことでサービス向上につながると思

う。

1 点確認したい。市町村有償運送などの路線について市役所で GTFS を作成する際に、担当者が変わったタイミングで時刻変更等がなされず、更新されないままの状態になっていることがある。人事異動の際などに引継をしっかりと行い、サービスを維持していただきたい。

事務局

業務の引き継ぎは重要であると認識している。GTFS データの作成に 1 年間かかった。今年度実施された岡山県のセミナーに、事務局から 2 名で参加した。複数の職員が操作方法に精通している体制を維持していきたい。

委員

2 点ある。1 つ目は先ほどのグーグルマップの件について、現時点で 1 週間経過したところだが、この 1 週間で最寄りバス停における市営バス利用者が増えている。すばらしい取組だと思う。備前長船刀剣博物館の利用者数増加も期待できる。若い人はグーグルマップを使うため、1 週間でこれだけの利用者数増加につながったと考えている。

2 つ目は前島に導入した地域内交通について、9 月は日曜日、木曜日、金曜日の利用がない。まだ 2 か月目であり、もうしばらくの検証が必要ではあるが、本当に毎日運行が必要なのか検討の余地はある。経費もかかることでもあり、例えば週 3 回程度の運行とする方法なども検討してみてはどうか。今後、利用者数増加に期待はするが、現在の状況が続くようであれば毎日運行する必要がないように思う。

事務局

オープンデータ化により、バスの利用者が増えた実感があったということであり、我々も今後の推移を楽しみにみていきたい。

前島の地域内交通については、利用者の予約に応じて運行する形態となっており、運行業務委託料は 1 回当たりの単価での支払いになる。利用に応じて経費が発生する仕組みなので費用面については問題ないと認識している。

タイミングが合えば乗り合わせでの利用もできる。現時点では 1 人での利用が多い。フェリーの時刻に合わせた利用なのでタイミングによっては 3 人まで同時利用もできる。1 人利用が多いが、実際に 8 月に 3 人で乗車されたこともある。

委員

前島の方は実証運行の開始をととても喜んでいた。一方で、利用者が少なければ廃止されるのでは、との噂も聞いている。今後数年間運行を続けた結果であれば仕方がないが、まだ始まったばかり。過疎化が進む離島において、利用者が少ないからといってすぐに廃止するべきではない。徐々にでも利用者が増えることを期待して継続することが大切である。現状は、一定数の固定客が利用していると思われる。今後の利用促

- 進策も必要である。
- 事務局 方針として利用者が少ないからすぐに廃止ということはありません。過疎地、離島であることを考えて継続して島民の足として利用していただけるような仕組みを考えていきたい。現在、実証運行の段階なので、利用状況やご意見ご要望を聞きつつ継続していきたい。
- 会長 GTFS に関する作業について、市職員は業務として行っているのか、それともボランティアで行っているのか。また、外国語表記には対応しているのか。
- 事務局 市職員は業務として行っている。市営バスの利便性の向上といった側面から研修を受講し、業務の一環で作成した。外国語表記には対応できていない。今後の課題と考えている。
- 会長 前島の地域内交通について、以前は家族と一緒にないと出かけられなかったが1人で出かけることができ嬉しいという意見が紹介された。このような経験談が口コミで広がるとよいと思う。フェリー乗り場に置く広報誌などで体験談を紹介することは可能か。
- 事務局 利用者が更に増えるよう、運行事業者と一緒に前向きに検討する。

(2). バス路線の維持確保について

---事務局から資料（p4~10）について、バス路線の維持確保について説明---

《主な説明事項》

- 虫明愛生園線の路線廃止対応

- 会長 ご意見、ご質問はあるか。
- 委員 路線廃止の届出時期について、特例が認められる場合の説明がわからなかった。詳しく教えてほしい。
- 事務局 虫明愛生園線は道路運送法の4条許可を受けて運行している。住民の生活を守る公共交通であり、急な路線廃止による地域住民への影響を緩和するため、路線廃止する場合は6か月前までに届け出るというルールになっている。ただし、公共交通会議で代替交通を協議し、移動手段確保の目途が立っている場合に限っては、1か月前までの路線廃止届提出が特例として認められるという内容である。
- 副会長 つまり、この公共交通会議で合意すれば、1か月前であっても路線廃止ができるということである。
- 委員 6か月前と1か月前の期間の違いはなにか。
- 副会長 地域住民に迷惑がかかるため、路線廃止するときには早めに届け出てほしいというのが6か月前であり、公共交通会議で協議し、代替手段

について合意できている場合は1か月前でよいということだと認識している。

委員

承知した。

委員

虫明愛生園線はバスが愛生園まで入っている。説明では、園職員と学生の利用がほとんどで、入所者の利用はなく、利用者数は少ないとのことであった。長島愛生園と邑久光明園は国の所有だと思うが、国や市から路線に対する補助は出ているのか。

事務局

ダイヤ改正前の9月までは増便分の負担金を市が支払っていた。現在、負担金としては出していない。

委員

補助金は出していないということか。

事務局

現在、市の政策として虫明愛生園線に補助金は出していない。

委員

長島愛生園と邑久光明園は国が管理している。運賃は、長島愛生園～邑久駅が720円、瀬溝～邑久駅が560円となっており、この差が160円となっている。市から補助金を出すのではなく、国の管理なら国から補助金をもらうなどして、市の財政の負担軽減を考えてもいいのではないか。

事務局

いろいろ経緯はあると思うが、長島愛生園と邑久光明園に入所されている方も市民であり、同じようにサービスを提供する必要があるため、入所者の皆さんには市のタクシー活用事業を利用させていただいている。各園がマイクロバスを保有しており、独自に入所者の外出支援をしていると聞いている。住居者、職員、愛生園付属の看護学校の学生、世界遺産登録による観光利用なども含め、市としては公共交通を残す必要があると考えている。

委員

2つお願いがある。1点目は現在小学生以下が無料となっている、ぜひ中学生以下も無料にさせていただきたい。2点目は以前も両備バスへお願いしたが、新しいことをプラス思考で考えてほしい。市民の足を守るとなると当然マイナス思考もでてくる。それをカバーするプラス要因を考えていただきたい。

行政に対しては、市営バスは土日祝の運行がない。これから観光が戻ってくることを考えると、土日祝の運行がないのは問題がある。関東圏の人や若い人は免許をもたない人が増えている。観光を考えると、土日祝日の空いたバスを活用して運行するべき。両備バスに対しては、市民の足だけでなく、両備バスは観光という強い部分を持っている。備前市との地域をまたがる観光ルートの路線を作ってはどうか。例えば、備前～伊部～日生～刀剣博物館を結ぶルートを作れば新しい流れができると思う。

ある。法的には9月末には廃止届を提出する必要があったが、両備バスとしては自身の都合により路線廃止することで地域の方に迷惑をかけるということではなく、代替手段をこの公共交通会議で一緒に協議し、それが決定した段階で届け出たいという考えである。

- 委員
事務局 この場で代替手段が決まらなかったらどうするのか。
協議が整わなかった場合は、両備バスが独自判断により廃止届を提出することになり、そこから6か月後の廃止となると理解している。
- 委員
事務局 3月廃止は延長されるということか。
万が一、この交通会議で協議が整わず代替手段が決まらない場合は、可能性は0ではないと認識している。
- 委員
事務局 もう1点確認したい。8ページに現状ダイヤを基準に調整するとあり、備考欄に把握できているニーズをできるだけ反映とあるが、9ページにあるスケジュールでは地元説明会など予定されていないがどうなるのか。
ダイヤの希望もできるだけ多くの方に聞きたいが、時間的に厳しい状況である。先日の住民意見交換会では両備バスの現状ダイヤを維持してほしいとの意見もあった。一方で、路線沿線の施設からは希望するダイヤなどの話しも伺っている。現状のダイヤをベースとしつつ、できるだけ多くの方の希望に沿ったダイヤでスタートさせたい。運行開始後の話しではあるが、市営バスであればダイヤ改正が比較的やりやすいというメリットもあるため、運行しながら改善していきたい。
- 委員
事務局 市営バス化してから利用者の要望を聞くということでよいか。愛生園に8:29に到着する現行の便では園職員は時間に間に合わず、バスを利用できないと聞いている。しっかりニーズを聞いていただきたい。
事務局 運行開始してからもしっかりニーズを聞いていきたい。
- 会長
事務局 市営バス化に必要となる予算を組んだ後に、大きな方針変更の可能性を残しては、予算が組みにくくなる懸念はないか。
事務局 大きく影響する。今回は期間が限られており、4月1日には市営バス化する予定で予算を組むため、タイトなスケジュールの中で検討しなくてはならない。
- 会長
事務局 ほかに質問などないか。
なければ、両備バスが運行している虫明愛生園線廃止の代替手段として市営バス化により運行する方針として、皆さんの合意を確認する。ご意見はあるか。
- 副会長
事務局 今日の合意は10ページの特例の合意も含めてなのか。
今回は市営バス化の方針について合意していただき、次回会議で具体

副会長
事務局

的な運行計画について合意をいただきたい。
8ページの案についてだけでいいのか。
そうである。市営バス化の方針についての方向性を確認していただき、合意していただきたい。

委員

事務局

会長

次回 12 月中旬の公共交通会議で具体的な運行計画について合意をしていただき、自家用有償運送の認可申請をするという流れである。本日は市営バス化の方針について合意いただくのみとなっている。

市営バス化に向けたスケジュール案を見ると地元説明会が 1 度実施されているが、今後は開催されないようになっている。地元説明会を開催しない予定なのか。

10 月に開催した住民意見交換会において住民の皆さんの意見を伺い、市営バス化の方針で意見が一致したと考えている。住民の方それぞれにダイヤやバス停の位置など要望があると思うが、運行しながらニーズに対応できるよう改善していくという考えである。運行開始までは住民説明会を予定していない。

補足だが、公共交通会議、関係する予算、条例改正などはこれから市議会へ提出する。これから議員の皆様から意見をいただきながら、住民説明会が必要となれば、検討していく。今後、住民の皆様へ広報紙などでダイヤやルートを周知する予定である。

改めて、両備バス路線廃止後の代替手段確保について市営バス化により運行する方針として、ご異議のある方は発言をお願いします。

～異議なし～

意義のないことを確認した。事務局は市営バス化に必要な手続きなどに向けての準備を進めることとする。

本日の議事は以上。

4. その他

※次回公共交通会議は 12 月中旬から下旬の開催を予定している。その際、市営バス化の詳細について合意をいただく重要な会議となる。日程等については改めてご案内する。

5. 閉会

副会長

GTFS の件は、市の業務でありダイヤ改正などの反映は確実にやっていく必要がある。虫明愛生園線廃止については、市民生活に影響が大きく、当会議や市議会などからも様々な意見や要望があがっている。本日、今後の方針について合意いただいたことをうれしく思う。今後関係

機関と調整しながら準備を進めていき、次回会議で具体的な運行計画について合意を頂ければよいと思う。また、来年度の路線廃止の可能性がある牛窓北回り西大寺線についても今後みなさまの意見をいただきながら検討していきたい。

以上